

CAGLIERO¹¹

NEWSLETTER FOR SALESIAN MISSIONARY ANIMATION



第27号

～ サレジオ会宣教ニュース ～

2011年3月11日

親愛なるサレジオの宣教師、サレジオ・ミッションの友人の皆さん！

どんな本を読むのが好きですか、最も頻りに祈ることは何ですか？それを聞かせてくれたら、あなたの心がどこにあるか、お教えしましょう。宣教師がいなければ、宣教ありません。すべてを置いて福音に仕えるために生涯を捧げるキリスト者がいなければ、すべての人へ遣わされる宣教 mission ad gentes は不可能です。新たな宣教召命のための祈りがなければ、宣教の将来を計画するのは難しくなります。今日、企画や財政面で宣教を助けようとする取り組みは数多く見られます。2011年の四旬節の道のりを、宣教召命のために絶えず祈りながら歩んでくださいませんか。皆さんのご協力をお願いします。

宣教師顧問

Václav Klement
Fr. Václav Klement, SDB



祈りによる宣教への協力

宣教に協力する方法の一つは、祈り、犠牲、キリスト者としての生き方のあかしを通しての、霊的な協力です。宣教が神の恵みによって効果あるものとなるために、宣教師たちは祈りに伴われることが必要です。宣教師であることには、大きなものから小さなものまでさまざまな犠牲が伴います。そのため、宣教師のための祈りもまた犠牲の伴うものとなります。だれにでもできる一つの方法は、日々の生活の苦しみを受け入れ、宣教師と宣教召命のために、愛をもってそれを神に捧げることです。また、断食したり、何かを断ったりして、それと同等のものを宣教師の物的な必要をまかなうために差し出すこともできます。

祈りと犠牲を通して、だれもがサレジオ会の宣教活動に協力することができます。玄義ごとの一つの大陸を思い起こしながら唱える宣教のロザリオも、そのためのよい方法です。毎年、サレジオ宣教の日のテーマに即した祈りが作られ、すべての共同体に配られます。そして毎月、特に11日に、サレジオ会宣教の意向が示され、宣教への協力のこの霊的次元の重要性が強調されます。他方、宣教師のための共同体の祈りは、宣教の文化を育み、使徒職に活力を与え、ひるがえって共同体を活気づけることとなります。

アフリカのための宣教師募集

管区 - 国	必要な言語	活動・要件
エチオピア - AET ガンベラ使徒座代牧区	英語、地方言語	サレジオ会に委託された使徒座代牧区、少ない人材、初期福音宣教
スーダン - AFE	英語、アラビア語（北部） 部族語（南部）	南部での初期福音宣教、戦後期、土着信仰の地方で大きな可能性、サレジオ会員が少ない
ナイジェリア - AFW	英語、地方言語	新たな拠点の可能性（ラゴス）、サレジオ会員が少ない
ウガンダ - AGL	英語、地方言語	初期福音宣教、戦後期、国内4箇所目の拠点が開設される
アンゴラ - ANG	ポルトガル語、地方言語	初期福音宣教、戦後期、サレジオ会員司教、会員は少ない
チャド - ATE	フランス語、地方言語	サレジオ会の人材は少ない（多宗教の環境、一部ではイスラムの環境）、厳しい気候
赤道ギニア - ATE	フランス語、地方言語	サレジオ会の人材は少ない（多宗教の環境、一部ではイスラムの環境）、厳しい気候
中央アフリカ ATE	フランス語、地方言語	サレジオ会の人材は少ない（多宗教の環境、一部ではイスラムの環境）、厳しい気候
マダガスカル - MDG	フランス語、マラガス語	初期福音宣教（ベマネヴィキー）、少ない人材、サレジオ会員司教

不安はあった、でも信仰を分かち合いたかった！



若い志願生のころ、宣教の話や宣教師たちの体験談を聞き、その英雄的な生き方に感動しました。私も挑戦する生き方をしたいと思いました。同時に、躊躇する気持ちもありました。一つは、自分の健康が心配でした。それでも、ポスト・ノビスのときに宣教師を志願しました。自分の信仰を人と分かち合いたいという強い望みを感じたからです。管区長からパプア・ニューギニアに派遣されると聞いたときは、興奮しました。

現地地で生活を始めると、メラネシアの文化はどちらかというと「変わっている」、時には「変だ」と私には思えました。人々の考え方に合わせるのはとても大変のように感じました。しかし、時がたち、私たちの学校の生徒や教会の若者たちと友達になるうちに、彼らをありのまま受けとめ、彼らの習慣や価値観を理解するのが容易になりました。

宣教師になって1年後、「メラネシア新宣教師のための文化オリエンテーション・コース」に参加する機会を得ました。このコースは、私の最初のころの体験について評価を行い、自分が見たり聞いたり体験したりしたことの意味を理解するのにとても役立ちました。メラネシア文化のさまざまな側面に目を開かせ、この文化により深く入るためにどうしたらいいか、助けてくれました。メラネシア文化の多くの長所を評価し、人々の価値観や習慣をよりよく理解するようにしてくれました。

私は実地課程の3年間を、多くの方がパプア・ニューギニアの最もキツイ現場と言うところで過ごしました。アライミリです。私は「文明」から孤立した生活を送らねばなりません。密林の奥深くの、単純素朴で質素な生活は、今日ある私を形作っています。厳しい生活を生き抜くために、たくましく忍耐強くならねばなりません。自分自身や土地の人々に対して、柔軟で忍耐強くあることを学びました。直面し、戦わねばならなかったことの一つは、「待つ」ということです。私たち都会化した社会から来た人間にとって当たり前な時間の感覚を、土地の人々は持っていないのです。

私は文明から遠く離れた地図にも載っていないところで生活しましたが、そこで神が生き生きと共におられるのを体験しました。特に、宣教師としての生活の最も大きな試練、挑戦のなかでそれを体験しました。生活に必要な最も基本的なものにも事欠いたとき、私たちはほかのだれでもなく、神に寄り頼みました。神の愛と摂理に対する私の信頼も成長しました。私たちの共同体は、自分たちの心配や関心事、恐れや不安、使徒職、そして私たち自身を、祈りの中でゆだねました。あわただしいマニラの都会生活にそのまま浸っていたら気づくこともなかった奇跡の数々に、私の目は見開かされました。

またアライミリでは、サレジオ会の共同体生活がどれほど力強い力の源であるかに気づかされました。とても献身的で自己犠牲を惜しまない会員たちと生活できたことは、大きな祝福でした。彼らの献身的な生き方、使命へのゆるぎない愛、靈魂の救いへの熱意を、私は誇りに思います。

司祭叙階を準備しながら、自分の国、同胞と思えるようになった土地と人々のもとへ帰れることも、私は楽しみにしています！

フィリピン出身、パプア・ニューギニア宣教師 エンジェル・サンチェス助祭



Salesian Missionary Intention

中東の移民のために

中東・湾岸諸国のサレジオ会員が、教育・司牧奉仕を通して、召命の同伴においても、移民と共に歩むことができますように。

中東管区は、7か国に広がるさまざまな事業を管轄しています。イスラエル、パレスチナ、トルコ、シリア、レバノン、エジプト、イランです。湾岸諸国のクウェイトとイエメンにも支部があります。難民、特にイラク人キリスト教徒や、アフリカ、アジアの多くの国からの移民の存在は、サレジオ会の多くの現場で大きくなっています。グローバル化した世界のどこでもそうであるように、ここでも、自国を離れた人々への第一の奉仕は、信仰・召命の歩みを含む、あらゆるレベルでの同伴です。



ご意見は segrgia@donbosco.jp まで